

《株式会社エフエム東京 第421回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成27年9月1日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社10階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数6名(社外5名 社内0名)

◇出席委員(5名)

横森美奈子 委員長	渡辺貞夫 委員
内館牧子 委員	秋元康 委員
ロバート・キャンベル 委員	

◇欠席委員(1名)

川上未映子 委員

◇社側出席者(9名)

富木田 代表取締役会長
千代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉田 常務取締役
村上 取締役 編成制作局長
山科 常勤監査役
森田 マルチメディア放送事業本部 ゼネラルプロデューサー
延江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮野 編成制作局 編成制作部長

◇社側欠席者(0名)

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴(約27分)
「JAPANESE POPS REFRAIN 1945-2015 ～作詞家・松本隆の45年～」
2015年8月16日(日) 19:00～19:55 放送

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■8/22 『エフエム長崎・TOKYO FM 共同制作 世界遺産登録記念特番
世界文化遺産の礎を築いた男～小山秀之進と長崎』を放送

8月22日(土)22:00から、世界遺産登録記念特別番組『世界文化遺産の礎を築いた男～小山秀之進と長崎』を放送致しました。

2015年7月5日、『明治日本の産業革命遺産』が世界文化遺産に正式に登録されましたが、これら長崎・熊本の世界遺産に深く関わるひとりの人物がいます。それが放送作家・小山薫堂の高祖父にあたる棟梁・小山秀之進。洋風の建築技術も確立していない明治時代に、幕末明治初期の長崎居留地にあるグラバー邸や、日本最古の現存するキリスト教建築物・大浦天主堂などを建設しました。明治日本の産業革命に多大な影響を与えながらも、一般にはあまり知られていない「小山秀之進」のルーツを訪ねて、小山薫堂が長崎の地で様々な角度から取材し、日本の産業革命の発祥ともいえる「長崎」の礎を築いた男たちの功績を紐解きました。ナレーションは、長崎出身で小山薫堂と親交のある福山雅治がつとめました。



■TOKYO FM の外国人向け多言語チャンネル「TOKYO FM WORLD」
～tunein と連携し、外国人向けの情報発信プラットフォーム創造へ～

2020年に向けて外国人への日本の情報発信ニーズが高まる中、多言語情報配信チャンネル「TOKYO FM WORLD」を今夏より開設しました。世界最大級のオーディオネットワーク「tunein」との連携を通じて、国内外の外国人リスナーに向けて、英語や中国語で、日本の音楽・カルチャー・観光情報などを紹介する多言語コンテンツの配信を実施しています。

「tunein」は、月間5,000万人以上のアクティブリスナーを抱える世界最大級のオーディオネットワークで、世界230の国・地域で利用され、世界各国のラジオ局の10万のコンテンツ、400万のポッドキャストを配信しています。多くの国々で聴取可能な「tunein」で番組配信することで、日本に興味を持つ外国人リスナーにも情報発信が可能になります。第1弾コンテンツとして以下4番組を現在試験配信中で、10月には公式サイトを開設して番組も増やしていく予定です。

*『DEMPA ch.』 英語版



ジャパニーズポップカルチャー最先端アイドルユニットとして海外でも人気の「でんぱ組.inc」が、日本が世界に誇る素晴らしいカルチャー・人・モノを独自の視点を紹介します。

*『TOKYO HANA-COMACHI』 英語版・中国語版

東京の名所にまつわる最新情報やトリビアなどを紹介。

*『Green Essence』 英語版・中国語版

日本、世界各国の環境活動や、エコなライフスタイルを紹介。

*『GOON TRAX presents TOKYO TRAX』 英語版

東京を拠点に良質な音楽作品を生み出し続けるレーベル「GOON TRAX」が、TOKYO FM WORLD エクスクルーシブのDJ MIX プログラムをお届け。

この「TOKYO FM WORLD」を通じて、当社ステーション理念である「世界の若者との感動と共感のネットワークづくり」を推進するとともに、急速にニーズが高まる外国人向けの広告需要に応えるプラットフォーム創造を目指して参ります。

【委員の意見および社側説明】

(「○」 委員意見 / 「■」 社側説明)

○「TOKYO FM WORLD」というのはどのような仕組みの番組なのか？

■tunein のネットワークを利用して聴けるようになっている。通常の番組のパーソナリティではなく、通訳の役割をするパーソナリティを介して、別番組として放送している。

○番組は一日中放送しているのか？それともセレクトして聴けるようになっているのか？

■tunein は、現在、世界的に利用されているインターネットラジオの無料プラットフォームであり、番組はセレクトして聴けるようになっている。

○英語版と中国語版を制作した理由は？

■英語と中国語は世界で使用する人口の多い語学である、という認識のもとに制作した。特に、中華圏の多くの方々が日本での観光を楽しんでいるという現状を鑑み、まず、英語・中国語からスタートした。今後、他の言語も作成していく準備がある。

○今の日本カルチャーを海外に発信するのが目的なのか？他の放送局はどのような取り組みを実施しているのか？

■NHK が NHK WORLD という放送を展開している。しかし、ラジオとしてはとてもレアな取り組み。

■このような放送のしくみは著作権関係、特に音楽関係のクリアが非常に難しい。包括での許諾はこれからだが、現時点での放送にまつわる権利はクリアにできたので、この放送に至ることができた。

○今回の報告にはなかったが、日本武道館で実施する安部礼司の生ドラマが、自分のまわりで話題になっている。

■「あ、安倍礼司」も放送 10 年を迎えた。これまで展開してきた各地方リスナーとのコミュニケーションから発展し、今回は公にお披露目する場として日本武道館での LIVE を実施することになった。アリーナ席は既にソールドアウトしており、売れ行きも好評である。

議題2: 番組試聴

【番組名】「JAPANESE POPS REFRAIN 1945-2015 ～作詞家・松本隆の 45 年～」

出演: 松本隆、田家秀樹

【放送日時】 2015 年 8 月 16 日(日) 19:00～19:55 放送

【番組概要】

本日までご試聴いただくのは、日本を代表する作詞家・松本隆を迎えた特別番組「JAPANESE POPS REFRAIN 1945-2015 ～作詞家・松本隆の 45 年～」、8 月 16 日(日)の放送回のダイジェストです。

松本隆は、1969 年、20 歳のとき、細野晴臣、大瀧詠一、鈴木茂とともにロックバンド「はっぴいえんど」を結成し、ドラムと作詞を担当。「日本語のロック」を立ち上げ、その後の日本のポップ・ミュージックシーンに多大な影響を与えました。「はっぴいえんど」解散後は作詞活動に専念。近藤真彦、松田聖子、斉藤由貴、薬師丸ひろ子、KinKi Kids など、膨大な数のヒット曲を手がけ、寺尾聰「ルビーの指環」(81 年)では日本レコード大賞作詞賞を受賞するなど、歌謡曲黄金時代を築きました。

番組では、今年で作詞活動 45 周年、これまで 2,100 曲以上を作詞してきた松本隆の様々なアーティストとの貴重なエピソードを珠玉の名曲とともにお届けしました。インタビュアーは音楽評論家でラジオ番組の構成・出演者としても活躍する田家秀樹。

今なお第一線で活躍する松本隆のクリエイティブの信条が明かされる貴重なプログラムとなりました。



【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○すごく面白かった。松本さんはあまりメディアに出てこないのも、非常に貴重なインタビューだと思う。だからこそ客観的すぎる内容で、少しもったいないと感じた。歌謡史がどうであったとかよりも、貴重な松本さんのインタビューをもっと聴きたかった。

田家さんによる、時代と松本さんの楽曲を重ね合わせた構成はよくできていると思うが、それよりも本当に面白いのは、スタイリッシュなイメージのある松本さんが、楽曲のセールスの勝敗に関して非常に敏感な人だったんだ、という人間味の部分だと思う。

田家さんというインタビュアーがいて初めて言えた、本音の部分を引き出したというのはラジオの魅力だと思う。売れる売れないを考えずにいいものを作って、これ以上のものはないんだという考えの人で、というイメージだったが、実はビートルズと自分を比較して、「売る」っていうことも大事なんだ、って気づく。そして、勝敗を常に気にしながら作詞家として生きてきた。そのあたりの話をもっと聞きたかった。

TOKYO FM でこの番組でしか聴けなかった松本隆の肉声や本音、これがラジオのリアリティであると感じる。ある種照れ笑いとかいろんなことを含めて、本音を語っているのに客観的に整理してしまったところが、温度を感じない。もったいない、と感じた。

○同時代を生きて時代背景も重なっている年代にとって、松本さんは憧れの神様みたいな人。今回聴いていて、音楽というのは結局自分が青春期に生きてきた時代と重なるので、同年代の人はこの「はっぴいえんど」を聴くと、その時の自分のいろんなことを思い出すのだろうと感じた。自信もなくして、将来もどうなるのかな、と思いつつ生きていた時代と「はっぴいえんど」のあのメロディや歌詞が全部重なる。音楽だけではないかもしれないが、自分が生きてきた時代、特に青春期の生き方と重なるんだな、と思った。

もう一つ感じたことは、せっかく松本さんのインタビューの機会があったのだから、もっといろんな話が聴けるかな、と思っていたのがそうでもなかったということ。あれだけの大物なので、もっともなのかもしれないが田家さんから松本さんに対しての畏怖の念が強く出ていると思った。もっとこの部分を詳しく聴きたい、と思ったところをそれほど追及しないまま、まとめに入ってしまった。番組の方向性として、松本さんをどう活かそうとしたのか、というところが少し甘かったのではないかな。

○松本さんのことについて、もともと興味を持っている人にとっては面白い番組なのかもしれないが、そうではない人にとっては、退屈に感じるのではないかな。番組のトーンも暗く感じられたので、もっと明るい印象の番組にした方がよかったのでは、と思う。

○松本ワールドを、体系的に説明している部分が多かったと感じる。作詞を手掛けた人の人生を聴く番組というのはよくあるが、何よりも面白かったのは、松本さんの強烈な個性。編集されているのかもしれないが、松本さんという人の非常に勝敗にこだわった

り、敵味方を強く意識しながら生きる部分を描き出していて、とても面白かったし楽曲のこぼれ話を本人から聴けたことはとても良かった。

課題は、この番組を聴いて自分史を迫体験できた人は共感できたかもしれないが、そうでない人に対して、もっと詩に降り立ったストーリーにできればよかったのではないか。どういふところにこの詩の凄さがあるか、そこをもっと引っ張り出せるような展開ができればよかったのに、と思った。

○松本さんという人の出現から今日に至るまでの活躍を知っていたようで、実は知らなかったということに気付いて、とても面白く拝聴した。「エイプリル・フール」というロックバンドを経て「はっぴえんど」、そして松田聖子さんのような歌謡曲の作詞。とても有名になったけれど、ミュージシャンから作詞家になった経緯についてはよくわからなかった。しかし、本人が語っているのを聴いて、一人の人間の歴史としてよく理解できた。

音楽でも何でも、ただいいものを作れば売れる、というわけではない。時代との絡みということがすごく大事。松本さんという人は常に社会や時代への視線というものがすごく優れていて今の地位を築いたんだと感じた。

しかも、才能があったからすぐ作詞家になったというわけでもなく、生活の紆余曲折もあった上だったこととか、いろいろなことがすごく腑に落ちて、素直に興味深く聴いた。余計な演出がなく分析も良くされていて、松本さんについて詳しくない人が聴いてもわかる内容になっていて良かった。

■松本さんは今回、作詞活動 45 年目ということで、インタビューに答えていただいた。ラジオでは TOKYO FM だけに出演いただけることになったが、インタビュアーはやはり熟練の田家さんでないと、と考えてお願いした。しかし、あれだけ膨大なインタビュー経験者の田家さんも大変な緊張をされていたので、最初は手探りで進めていった。ご指摘いただいたように編集したものは、ややクロニクル的な番組に納まった感はあるが、日本歌謡史を代表する大物作詞家による、TOKYO FM だけでお話いただいた内容をリスナーに届けることができ、貴重な機会であったと感じている。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「SPO☆LOVE」
9月26日(土)5:00~6:50放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、10月6日(火)に開催することを決めた。